

遠隔地の母子に適切な保健・栄養サービスを！

■ 実施団体：

特定非営利活動法人
シェア＝国際保健協力市民の会



■ 国・地域：

カンボジア国・プレアビヒア州トゥバエンミエンチェイ郡
（4 保健センター管轄区（39 ケ村））

■ 現地カウンターパート

プレアビヒア州保健局、トゥバエンミエンチェイ郡保健行政局

■ 協力内容：

- ・2歳未満児の健康状態およびケアに関する現状の把握
- ・州・郡保健局の母子保健サービスに係る管理能力強化
- ・保健関係者による包括的乳幼児健康診断(IGM1000)の実施
- ・女性省傘下の自治体/コミュニティ女性子ども委員会と共同の、胎児から2歳の誕生日までの1000日の適切な栄養に関する啓発活動（妊産婦や養育者への食事指導、取り分け離乳食実施等）

■ 団体のこれまでの取り組み：

カンボジアでは1988年より複数の母子保健、地域保健プロジェクトを実施。2008年～2016年には、プレイベン州スパイアントー郡5保健センター管轄区にて母子保健サービス基盤強化、保健センターレベルでの乳幼児の健康改善のための保健サービス・モデル構築を行った。

■ 事業実施の背景：

カンボジアは妊産婦や乳幼児の死亡率は改善傾向にあるが、発育阻害や低体重出生児の割合は依然高く、保健省の優先課題の1つとして母子の死亡率と栄養不良率の改善を掲げている。対象州は国内移民の受け入れ地であり、人口の流動性などから公共サービスが十分に届いていない。

カンボジア国の課題と成果

課題①：子どもの栄養改善に欠かせない乳幼児健診が国の母子保健プログラムとして実施されておらず、予防接種等の他のプログラムとの連携ができてない。

成果①：2歳未満児の栄養改善を目的とし、異常の早期発見や予防接種提供を含む包括的乳幼児健診を、郡保健行政局、保健センター、保健ボランティアにて定期的に実施し、2歳未満児の低体重児の割合が19%から16%に減少した。

課題②：妊産婦、乳幼児に対する栄養とケアに係る情報・サービスの提供が不足している。

成果②：自治体/コミュニティ女性子ども委員会と共同で、胎児から2歳誕生日までの1000日の適切な栄養に関する啓発活動を行うことで、乳幼児への適切な栄養実践ができる養育者が29.9%から41.2%に向上した。

事業の波及効果



遠隔地でも可能な自治体・コミュニティによる子どもや妊産婦の健康増進プログラムの普及！

- ・対象全39村のコミュニティ女性子ども委員会自身により、自治体から離乳食教室実施のための予算を獲得！
- ・本事業成果を、2023年より「コミュニティにおける子どもの栄養改善」（草の根パートナー型）にて、プレアビヒア州内の複数郡に展開予定。
- ・将来的には、州全体の乳幼児や妊産婦の栄養改善の実現、および全国展開可能なプログラムのモデル構築を目指す。